

こんな時こそ、学校に元気、子どもに元気、先生に元気を！



10月中旬に、今年度福井県との人事交流で派遣されている二人の先生の話聞く機会がありました。福井県は、御存知のように学力面、体力面共に全国の最上位に位置する県であり、学習指導面で見習うべき点が多いのではと思いつながら、話を聞かせてもらいました。

二人の先生によると、配属されている学校では、基本的なことを確実に実践していること、家庭との連携が十分図れていることが、大きな特徴とのことでした。

そんな中、茨城の教育のよさについて話が及んだとき、二人の先生から同時に『特別活動については、茨城の方が充実している』ということでした。そこで、今回は特別活動における実践事例を紹介します。

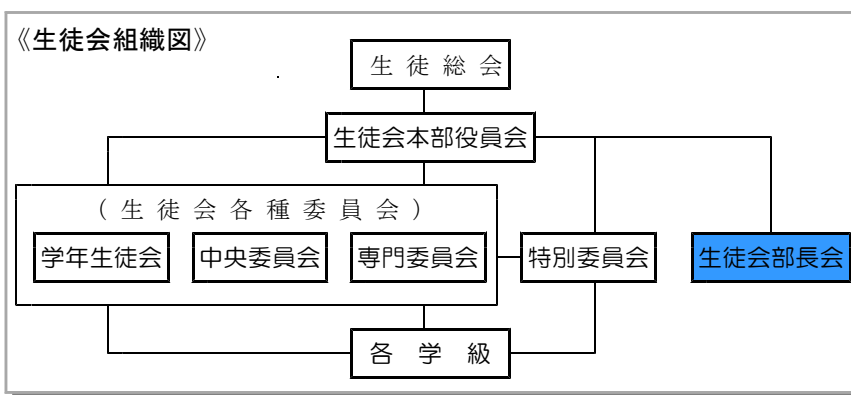
学校生活の改善と生徒会活動 — 東海村立東海南中学校の取組 —

東海南中では、数年前まで生徒指導上多くの課題を抱えていました。しかし、部活動での活躍が続いていたことから、生徒会顧問が中心となって、生徒の力を生かして生徒会のつながりをタテに、部活動のつながりをヨコにして学校を立て直そうと考えました。

まず、手始めとして、平成19年9月、部活動の部長の交代時期を機会に、生徒会本部役員との連携を図った『生徒会部長会』を立ち上げました。部活動加入率が90%を越え、未加入生徒も地域の少年団、スポーツクラブや吹奏楽団に所属している状況を踏まえて、部活動の部長会を一つの軸にして「集団生活におけるルールやマナーについて訴える」活動を始めたのです。部活動は、今回の学習指導要領にも記載されているとおり、「生徒の自主的・自発的な活動」として行われており、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、特別活動における生徒会活動の目標や内容とも大きく関連しています。

また、部活動では、学級以上に目的を同じにする集団が、試合、競技やコンクールにおいて力を競い合うこととなります。特に運動部の大会では、ルールやマナーを守り、心一つにして戦わないと勝ち上がることはできません。東海南中では、こうした部活動の目に見える現実を学校生活に応用し、学校の決まりをもとに生徒会自らがルールを決めたり、学校や地域のためになることを実践したりする活動を行いました。

例えば、「下校時刻(部活動の終了時刻)を守る」ことについては、それまで教師が何度声をかけても守れなかったのですが、平成20年5月に開かれた生徒総会で決議をし、部長会長が『宣言』したことで、それ以降教師側が指導することはほとんどなくなったということです。「あいさつ」についても同様で、『生徒自らの意志で決定したことは、自ら進んで守る』ようになりました。



生徒会部長会の様子

今では、総体や新人戦の壮行会の企画・運営はもちろんのこと、入学説明会、ボランティア活動にも**生徒会**や部活動の組織を生かした活動が進められています。部活動が盛んな、活気あふれた学校づくりが、生徒の自主的・自発的な参画によって進められています。

東海南中では、生徒の力を信じ、それを活かす場を設定し、活動を見守り、指導助言・支援をすることが、生徒の力を伸ばしていく教師の基本姿勢になっています。